

令和 5 年 11 月 28 日
都市局 都市計画課

20 代と 70 代の移動回数の差が拡大 ～第 7 回全国都市交通特性調査結果（とりまとめ）～

令和 3 年に実施した第 7 回全国都市交通特性調査では、昨年 11 月に「新型コロナウイルス感染症による行動変化が露わに」として、第 7 回全国都市交通特性調査（速報版）を公表いたしました。今般、調査データのさらなる分析を進め、別添の通り調査結果をとりまとめました。

※全国都市交通特性調査：人々がどのような目的で、どのような交通手段を利用して移動しているかなど
都市における人の動きを概ね 5 年に 1 度調査

1. 調査結果概要

（1）全体傾向

- 調査日に外出した人の割合、一日の移動回数ともに、調査開始以来最低の値に【既報】
- 各交通手段の移動回数は徒歩を除き減少も、構成比では自動車、徒歩の割合が増加
※本調査は、新型コロナウイルス感染症の影響も一定程度考えられる（程度は不明）
なお、調査時期は、オミクロン株流行前で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間外

（2）若者の傾向

- 2015 年以降、若者（20 代）と高齢者（70 代）の移動回数が逆転し、2021 年では差が拡大
- 若者の外出率を男女別に見ると、男性は、平日の「通勤」、「業務」の移動が減少
女性は休日の「買物」、「買物以外の私用」の移動が減少

（3）子育て世代の傾向

- 9 歳以下の子供がいる世帯を見ると、「送迎」を目的とする女性の移動が多い（男性の約 5 倍）
- 男性の在宅勤務により、男女で送迎の移動回数が同程度となることが示唆

（4）高齢者の傾向

- 70 代は、60 代と比べ、通勤・業務の移動回数が大きく減少、買物・散歩等の移動回数が増加
- 自動車免許をもたない場合、公共交通利便性が高いと外出率が高い傾向

（5）新たな生活様式での行動変化

- 在宅勤務者は、通勤者と比べ移動回数が少なく、交通手段は公共交通が少なく徒歩が多い
- 20 代は、70 代と比べ、活動のオンラインへの移行割合が高い
- 観光等は外出の減少割合が高いがオンラインの増加割合が低く、通院は変化が小さい

2. 調査データの公表について

調査結果は都市局ホームページに掲載するとともに、詳細な区分による集計データについて順次掲載いたします。交通分野だけでなく多くの分野における活用が可能です。

URL：http://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000033.html

【問い合わせ先】

国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室 御器谷、木村

電話：03-5253-8111（内線：32672、32673）、03-5253-8411（直通）